

歴史・イベント・季節・祭

堺まつり「利休のふるさと 堺大茶会」(2015.11.20 堺より R.U.)

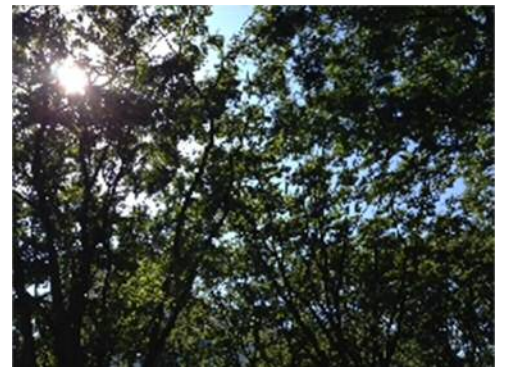
大阪府堺市といえば、仁徳天皇陵、与謝野晶子、包丁・・・と色々思い浮かべますが、この地で生まれ、茶の湯文化を大成した千利休の名を挙げる人も多いのではないのでしょうか。先月「第42回 堺まつり」が開催され、各地で多種多彩な催しがある中、大阪府立大学の茶道部が野点をするということで大仙公園会場の「堺大茶会」に行ってきました。お天気にも恵まれ、他団体が点てる三千家のお席や、園児たちのかわいい野点席、また堺市茶室「伸庵」で行われたお煎茶席にも立ち寄り、茶文化を堪能しました。自己顕示欲のため、豊臣秀吉によって京都北野天満宮境内において企てられた「北野大茶会」。千利休をはじめ当代きっての茶人3名、諸大名・公家や京都の茶人などを集めに集め、大規模な茶会を10日間の予定で開かせたものの、茶会は翌日に中止。諸説ありますが、秀吉の気まぐれという説が有力の様です。おなじ「大茶会」でも、茶道を自己満足的手段に使うことなく、和敬清寂（わけいせいじゃく）の心得を持って、利休が確立し今に続く「茶の湯」を大切にしたいものです。



「堺まつり プログラム」<http://www.sakai-tcb.or.jp/s-matsuri/program.html>

秋の気配？ (2015.11.2 仙台より H.Y.)

「暑さ寒さも彼岸まで」ということをよく耳にしますが、近ごろは日中は夏日でも朝晩の気温は20℃を下回る日が当たり前になりつつあり、寒さを覚えて朝目が覚めるなんて方も多いのではないのでしょうか。そんな秋の気配を感じるのもそのはずで、もはや仙台の秋の風物詩となった？「第25回定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台」が9/12(土)9/13(日)に開催されました。ジャズフェスティバルとはいうものの、音楽のジャンルはビックバンド、ロック、ゴスペルに和太鼓など様々で、今年は笙(しょう)の演奏なんていうのもありました。街のあちこちからプロ・アマを問わない多様な種類とレベル？の音楽が聴こえ、普段とは異なる、心地よい賑やかさの中に身を置くことができる二日間。全国的に同様のイベントはあるようですが、人生の大半を仙台で過ごしている私にとっては、それでもやっぱり楽しみにしている大好きなイベントの一つです。とはいえ音楽が好きで普段からよく聴いていたり、お目当てのバンドがいるという訳ではなく、専ら「花より団子」派で、出店や飲食店の軒先から漂う匂いの元がお目当て。同イベントは私がまだ小学生だった頃の第一回目は参加バンド25組、参加者150名、観客数も約5,000人程度だったとか。規模も小さく、会場も今ほど広範囲ではありませんでしたが、今では市内中心部のいたるところが会場になっているのでおかげ様であちらこちらからいい匂いが…。参加バンドが増えるにつれ、観客数も75万人を超えるようになり、出店もまた豊富に。四半世紀の積み重ねは伊達じゃない！そんな今年のヒットは、大人の肘から手のひらほどの長さの「焼タラバ蟹足！(800円)」(写真撮り忘れてしまいました。すみません。)他にもいろいろ食べたいので500円以上を屋台に払うのは正直躊躇しましたが、身もぷりっぷりで、妻(←こっちは音楽好き)も子どもも満足の美味しさでした。食べ終わり、エコステーションに殻を捨てにいった際に、ボランティアの学生さんに「すごい蟹ですね！」と言われ、何となく恥ずかしくもありましたが、そんなコメントをもらえたことも含めて大満足の「ジャズフェス」でした。今年、見に行かなかったという方も、是非来年は五感に沁みる音楽と味を求めて出かけてみてはいかがでしょうか。



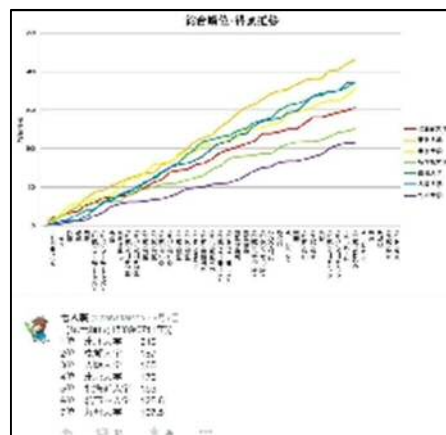
またまた秋祭り (2015. 10. 20 堺より Y. M.)

大阪府立大学から北西に約 1.5 キロメートルのところにある百舌鳥八幡宮では旧暦の 8 月 15 日に近い土曜と日曜の 2 日間にわたり月見祭という祭りが催される。五穀豊穡を祈る祭り生き物の成長を祈る祭り、そして中秋の名月を愛でる祭りの 3 つがあわさっており、ふとん太鼓で有名である。深紅のふとんと真っ白なふさや金色の飾りがとても鮮やかで、総重量は 3 トンにもなるという。これを 70~80 名で担ぎ『べーら、べーら、べらしょっしょい!』という掛け声とともに神社の境内を練り歩く。高さも 4 メートルほどあり、間近で見ると何ともダイナミック! ちなみに南海電鉄三国ヶ丘駅のロータリーにはミニふとん太鼓の乗った電話ボックスがあり、私たちの目を楽しませてくれている。



東北大・スポーツの夏 (2015. 10. 1 仙台より M. I.)

全国七大学総合体育大会、通称「七大戦」。第 54 回大会は東北大学が主幹を務めています。七大戦は伝統的な大イベントですが、個々の競技は主幹が中心になって運営する、手作り感あふれる大会です。私もかつて学友会バレー部に所属し主幹を経験しましたが、毎日早朝集合、試合もこなしつつ 22 時帰宅。レセプションが終わるころには文字通り「燃え尽きた」1 週間でした。さて、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、東北大学は 7 大学の中で唯一「主幹破り」をされていない、つまり主幹の年の総合優勝を逃したことがないのです。これは、前述の大会運営の大変さを考慮すると驚異的な記録と言えるでしょう。しかも今年は東北大学初、総合優勝 3 連覇がかかっています。また、七大戦以外でも、学友会人力飛行部 Windnauts が第 38 回鳥人間コンテストで優勝しましたね! 9 月 2 日のテレビ放映で、滂沱の涙を流したのは私だけではないはずです。これを書いているのは 9 月 10 日ですが、コラムが掲載される 10 月初頭には、全ての競技が終了し、七大戦の総合順位が出ているはずです。果たして東北大の総合優勝なるか! ? ぜひ東北大学 HP をチェックしてください!



堺の山車 (2015. 9. 18 堺より R. I.)

「だんじり」= 岸和田という等式ができるくらい全国的に知られていますが、堺で最も大きい祭りは百舌鳥八幡宮の秋祭り。旧暦の 8 月 15 日に行われるので、月見祭とも。百舌鳥八幡宮の秋祭りといえば「ふとん太鼓」が有名。近隣の町内が所有する二階建ての家くらいの高さの華麗なふとん太鼓が動くさまは圧巻。ふとん太鼓の陰に隠れた感のある堺市内の秋祭り。その一つ陶荒田(「すえあらた」と読みます)神社の秋祭り。小さいながらいくつもの山車がねりあるきます。年に一度の秋祭りなので夜遅くまで騒ぎまくる。警察や町内の長老は少し困り顔です。さすが大阪南部。岸和田ほどではないにしてもそれなりに荒っぽい。写真は近所に住む大工さんがお孫さんのためにコツコツと作られたミニだんじり。大工さんは岸和田のご出身で、ご自身も大のだんじり好き。ミニとはいえ、結構凝っています。ケータイの写真なのでわかりづらいですが。



みんなのくらしと放射線展 (2015. 8. 20 堺より R. I.)

大阪科学技術センター（大阪市西区靱本町）で開催されていた「第32回 みんなのくらしと放射線展」に行ってきました。色々なアプローチで放射線の活用が紹介されており、親子で参加できる企画も沢山あったので夏休み中の子供たちでとても賑わっていました。放射線によるジャガイモ収穫後の発芽防止や、生花の殺虫等の展示説明後は、思いがけずそれぞれ照射後のジャガイモと花束をお土産にいただき、皆嬉しく持ち帰っていました。「科学工作教室」で作った「分光万華鏡」は夏休みの自由研究気分ですっかり童心に戻り、「放射線トピックス」では「放射線の農業利用」についての講義を聴き、「わくわくサイエンスショー」では巧みな話術と展開が面白く・・・といった感じで会場を隅々まで満喫しました。改めて、知らないうちに身の回りで暮らしを支える放射線の側面を実感した一日でした。「みんなのくらしと放射線展 (<http://www.housyasenten.com/>)」



衣替え (2015. 7. 1 仙台より T. S.)

仙台市に移り住んで3か月が経ちます。こちらの生活にも慣れ、スマホで地図アプリを開かなくても、行ける場所が増えました。この数か月で、仙台市の良さを少しずつ感じておりましたが、その中でも特に感激しているのが気温です。これまで、大阪→東京と移り住んできた私にとって、この記事を書いている時期は、高い気温と纏わりつくような湿気に、暑がりの私は心乱される毎日を過ごしておりました。しかし、仙台での今年は違いました。最高気温こそ高いのですが、夕方以降は肌寒く、長袖や軽く羽織る物が欲しくなる日もあります。また、今のところ湿度も気になりません。例年、5月も終われば夏仕様へ衣替えをしていた私も、衣替えし切れずにおります。きっとこの先、私にとっての避暑地は、旅行でしか行かない軽井沢ではなく、住み良い仙台になりそうです。(写真は、越してきて間もない頃に、初めて訪れた松島です)



堺と陶器 (2015. 3. 19 堺より R. I.)

堺市の南部には陶荒田（「すえあらた」と読みます）神社（陶器大宮とも。地元では陶器神社）がある。この神社の周辺から今の泉北ニュータウン一帯は古代の須恵器の一大産地で須恵器発祥の地とも言われるが、意外と知る人はいない。神社の位置とその名前のため、陶器に関わる神社かと長い間思っていたが、そういうわけでもないようだ。大阪府大の南側に土師町（はぜちょう）がある。ここは土師氏（はじし・はじうじ）所縁の地といわれている。藤井寺市の「土師ノ里」も土師氏所縁の地である。土師氏関連では、”大樋焼の祖、初代長左衛門は、伝えによると河内国土師村の土師氏の出、土師氏二十三代であったといわれ”ている（「日本の陶磁」より）。堺には「湊焼」という焼き物（居酒屋メニューの焼き物ではありません。念のため）があった。楽家三代道入の弟道楽が堺へ移住して開いた窯と考えられているようです。何度か再興されたようですが、現在は途絶えている貴重な焼き物です。



SENDAI 光のページェント (2015. 1. 5 仙台より S.H.)

12月に入り、仙台では毎年恒例のSENDAI 光のページェントが開催されており、早速先日見に行ってきました。光のページェントは仙台市内の定禅寺通りにあるケヤキ並木に100万個以上のLED電球が設置されるイベントで、毎年12月に開催されている仙台市民ならだれでも知っているイベントです。今年で29回目を迎えたそうですが、周辺には飲食店も多いことから休日にはかなりの人で賑わいます。かくいう私も毎年見に行っているのですが、この時期の仙台は非常に寒く、日によっては夜の気温が0度以下になることもあるため、いつも短時間しか見ることが出来ません。今回もしっかりと防寒対策をして出かけましたが、人の多さとあまりの寒さのため、15分程度しか見ることが出来ませんでした。個人的には毎年これを見ないと1年が終わらないと思っているので、短時間でしたが無事にきれいなイルミネーションを見ることができ、少しは日々の疲れが癒されたかなと思っています。来年も無事に見ることができるよう、2015年も1年間健康に気を付けながら生活して行こうと思います。皆さんも寒い季節にイルミネーションを見て温かい気持ちになってみてはいかがでしょうか。



♪学祭へ行こう♪ (2014. 11. 10 姫路より Y.K.)

播州では秋祭りが盛んな地域がたくさんありますが、その祭りが一段落つく10月後半から始まるのが、学生達が主役の学祭、文化祭ですね。我が家の息子達も、兄は焼きそばの模擬店を出す、弟は文化祭のPR委員になった、とそれぞれに張り切っていました。兄の方は、焼きそばの材料の仕入れを担当していたために、前日ともなると狭い我が家の台所は大変です。焼きそば250玉、豚肉8kgを詰め込まれて満杯の冷蔵庫の横には、そのあおりを食らって放り出された食材を入れたクーラーボックスや発泡スチロールがずらり。冷凍室の保冷剤は底をついて、アイスノンまでかり出されていました。それだけの量の食材がいったい何食の焼きそばになったのでしょうか、都合で足を運ぶことは出来なかったのですが、売れ行きは好調で早々に完売できたと、満足げな報告がありました。

お手伝いもあってほぼ一日居た弟の高校の文化祭では、生徒だけでなく先生方も腕をふるう模擬店や手作りの品の販売を見て回り、ステージ発表では、「三年間まじめにやってきました！今日だけは、はっちゃけさせて（羽目を外させて？）ください！」と叫んで踊り始めた三年生のキレの良いダンスや生徒達、最後には先生方のバンド演奏などを楽しみました。手作り感や、学生、生徒と先生方、お客さんが一緒に楽しめる様子は、学祭、文化祭ならではの良さですね。自分が学生だったウン十年前を思い出しながら、若者パワーを吸収して元気になれた秋の一日でした。来年はどこかにお邪魔してみましようか・・・

播州秋祭り (2014. 10. 24 姫路より M.I.)

ここ播州地方で10月といえば、なんとと言っても「祭り」です。9月に入ると太鼓や笛の練習の音が夜の風によって聞こえてきます。関西では京都の雅な祭りや大阪は岸和田の壇尻が有名ですが、この辺りにも「灘のけんか祭り」に代表される勇壮な祭りがあります。大きなものでは2トンを超える「屋台」を、力士のまわしに似た「締め込み」姿で担ぎ、町毎に所有する屋台を練り合わせたりするのが特徴です。高校生になるとその正装「締め込み」デビューをし、大人の仲間入りをします。私が住む姫路の浜手の方では荒っぽい練子（ねりこ=担ぎ手）が多く、衣装（といっても裸に近いのですが）にも気合



が入るようで、この時期独特な祭り用品のチラシが入るので見ていて面白いです。（衝撃吸収材入り祭り足袋、腰につけるスマホ入れ等の新製品も…）わが町では子供用の小ぶりの屋台もあり、去年はそれに息子が乗って太鼓を打ったのでいつもとはまた違った楽しさがありました。盆や正月には帰省しなくても秋祭りには帰るといふ男性が多い地

域ですので、一緒に屋台を担ぐ仲間との付き合いは一生続くようです。また、地域の人々とのつながりや世代間交流の貴重な場となっているこのような祭りが、代々引き継がれていくのも頼もしい限りです。皆さんも地元の神社の祭りをのぞいてみてはいかがでしょうか。

慶長遣欧使節 400 年と音が溢れる秋の仙台 (2014. 10. 7 仙台より N.F.)

支倉常長が 400 年前の江戸時代初め、仙台藩の侍が藩主伊達政宗の命令で太平洋と大西洋を渡りスペイン、ローマへ向かいスペイン国王やローマ教皇とも会い、貿易や使節団の依頼などを行ったということです。そのときにヨーロッパの文化に出会い、持ち帰ったものは仙台市博物館



(<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/>) で出会うことができます。宮城県ではこれを記念し「食文化」の面から、市内のホテルレストランやスペイン料理の店などで「スペイン料理フェア」の開催を継続していますし、「芸術」の面からは支倉が聴いたであろう音楽（スペインはサルサが有名）を聴くことができる機会を持つなど取り組んでいます。私も今年「慶長遣欧使節 400 年記念事業」～オルケスタ・デ・ラ・ルス スペシャルコンサート～に行ってきました。音楽に国境はない！の名言で会場は気付けばみな体を揺らし踊っていました。オルケスタ・デ・ラ・ルス(<http://www.laluz.jp/>)曲のパワー、リズム、東北で育った常長にとってこの音楽は長旅の疲れをも忘れさせてくれるようなメロディだったことでしょう。仙台は「定禅寺ジャズフェスティバル」(9月)「仙台クラシックフェスティバル」(10月)「みちのく YOSAKOI まつり」(10月)と沢山の音楽で溢れています。街の紅葉が始まる季節に仙台で音の世界を堪能してみませんか？

(写真：オルケスタ・デ・ラ・ルスの演奏者)

姫路ゆかた祭り (2014. 8. 11 姫路より K.K.)

梅雨の季節、露店数西日本最大級の姫路ゆかた祭りが毎年開催されています。姫路城の守護神とされている長壁神社の例祭にちなんだ夏祭りで、繁華街の一角にある小さな神社に参拝する行列が毎年見られます。今年の姫路ゆかた祭りは 6 月 22～24 日に行われましたが、露店組合の暴力団に関係した不祥事が明らかとなったため、露店数を減らして開催されました。後日の新聞では、規模が小さくなり人出は減り、昔ながらの風情が戻ったという記事が掲載されていました。私も日曜日にゆかた祭りに散歩がてら行ってきました。人出に関しては、規模縮小の割に、狭い場所に人が集中して却って混み合っていたように感じました。例年と異なるのは、レストランや居酒屋など、地元の商店街のお店が多く出店していました。例えば生ハム・ワインをスペイン料理屋、カレーをネパール料理屋、鮎の塩焼きを割烹が出すなど、地元のお祭りとなっていました。それぞれ個性があり、食いしん坊の私にはむしろ例年よりも楽しめたように思います。今年は中途半端な時間に行ってしまったので、来年は腹を空かせて臨むことを決意しました。



野外フェス (2014. 5. 1 仙台より T.O.)

昔は珍しかった野外フェスですが、最近は全国各地、夏だけではなく様々な時期に開催されるようになりました。仙台近郊では毎年 4 月末、桜が散るころに開催されている野外フェスがあります。桜が散るのを見ながら音楽も楽しめますし、暑くもなく寒くもなく、とても良い時期です。お子さんがいる方は普段なかなかライブに行けないと思いますが、野外ということもありハイキング感覚でお子さんを連れて行くことができます。一方で、野外フェスも年々、人気が出ているようで混雑がひどくなっているのです。お子さん連れの場合は注意が必要です。また、野外なので雨が降ったときは大変ですが・・・。



全国各地で開催されているので、お近くで開催される際には参加されてはいかがでしょうか。

すずめ踊り (2014. 3. 3 仙台より M.S.)

よさこい(YOSAKOI)ソーラン系の踊りのイベントは、かなり人気があり、全国各地でイベントが行われ、にぎやかに交流が続いているようです。仙台には、熱心に保存・継続に力を入れている踊りとして、「すずめ踊り」というものがあります。もともとは、仙台城の新築移転の儀式の宴席にて、泉州・堺から来ていた石工たちが城主・伊達政宗公の前で即興的に披露した踊りに始まるのだとか。築城工事というお城の秘密を知っている石工衆は帰郷を許されず、仙台の地に住み続けることとなり、踊り継がれていたものの、戦時混乱期に伝承者不足に。昭和中盤に、途絶えていたのを復活・保存に取り組み、1985年(S60)に仙台・青葉まつりのイベントの一つとして組まれることにより広がり、現在では、すずめ踊りがメインとなっている祭り・イベントが多々あります。この踊りの由来を知って、ありがたいことに、堺では、すずめ踊り普及活動に取り組み、堺・仙台の政令指定都市同士の交流も続けてくださっているそうです。



「東北芸能祭 in 堺」2014年3月9日(日) → http://www.sakai-bunshin.com/event_shousai.jsp?id=1460845

「堺すずめ踊り協賛会」 → <http://www.h4.dion.ne.jp/~js.maeda/suzumeodori.htm>

節分 (2014. 2. 3 仙台より M.S.)

節分といえば、豆まき、恵方巻き(丸かぶり寿司)、鯛に柊。それらにより、悪いものを滅し、新しい年(季節)や福を迎えるという大切な行事ですね。鯛や柊は、あまり見かけないように思うのですが、皆様の地域ではいかがでしょうか。ちなみに、東北での豆まきは、もちろん寺社仏閣は炒った大豆を使うものの、家庭では落花生です。北海道、東北、信越地方だと、落花生派が多く、また千葉県、宮崎県、鹿児島県でも落花生派が存在するとか。落花生は、殻付のまま投げ、まいた豆を拾って食べることから、豆まき用の豆もその後の食べる用の豆も同じで、合理的なんです。NHK ニュースによると、節分の行事として“恵方巻きを食べる”が“豆をまく”を逆転しているとか。子供の頃、家族全員で今年の方角(恵方)を向きながら無言で太巻きを食べるという風習を知って、衝撃を受けたものです。今では、スーパーマーケット・コンビニなどなど、あらゆる所で恵方巻きの告知。もう違和感は減退し、それで福を招くことができるのなら・・・と、さて今年は何をかじりつこうか、チラシを眺めながら思案する節分前でした。



NHK ニュース おはよう日本 けさの知りたい「恵方巻き 定着の秘密」(2014. 01. 24 放送)

→ <http://www.nhk.or.jp/ohayou/daily/20140124.html>

東大の紅葉 (2013. 12. 20 東京都文京区にて A.N.)

先日、産学官が知恵を出し合って、「モノづくり日本」&「材料大国日本」を再建していこうという決起集会の研究会が東大でありました。会議の後、熱気を冷ますため、初冬の東大内をそぞろ歩きましたが、東大には赤門、三四郎池や安田講堂など有名処が多々あり、さらに歴史的な建造物などの見所も多いせいか、ツアー客のような観光客も多数見かけました。また、写真のような銀杏の樹木の下を歩きましたが、赤い紅葉とはまた違った趣でした。今回は温暖化の影響か例年より紅葉が遅いとかで、初冬ながら晩秋の趣も味わえました。学問の府である大学のキャ



ンパスは、都市にあっては緑地としての存在、災害時の避難場所などの存在意義がありますが、最近是一般の人も大学キャンパスに出入りして経済活動に貢献しています。実際、欧米の大学でもキャンパスはかなり解放されており、市民の憩いの場や市民学習の場ともなっています。最近、日本の大学もオープンキャンパスなどとして開かれつつありますが、今後は、生涯教育の場として特別の場所ではなく、より開かれた場所となっていくはずで

晴天下の「悪天候により中止」(2013.12.2 仙台より M.S.)

気球が空にいっぱい浮かんでいる写真を撮りたくて、「大崎バルーンフェスティバル(11/22-24)」の宮城県大崎市岩出山の江合川の河川公園に向かいました。会場駐車場の入口の警備員さんの持つプラカードが、表題の「悪天候により競技中止」。落胆・理解しつつ、駐車場に入ると、立派な一眼レフカメラを持っているカメラ族さんが駐車場にぞろぞろ戻ってきました。会期中何度か行われる熱気球競技フライトが、お目当てだったわけです。仙台藩祖・伊達政宗が、太閤秀吉の命令で、山形の米沢から宮城へお引越(転封)した最初の地・岩出山まで来たのだから、目的を果たせなかったからと、いつか、気球と縁があり、写真を撮りたいものです。



「日本気球連盟」HP → <http://www.jballoon.jp/taikai.html>

秋の風物詩(2013.11.5 仙台より M.S.)

この煙っている河原(広瀬川、牛越橋付近)の風景、何をしているかお分かりますか?東北出身の方なら、すぐにピンとくるのではないのでしょうか。そう、「芋煮会」です。呼び方は違うものの、東北(+関東?)では、サトイモなどの野菜や肉類を入れた野外鍋料理を河原等で楽しめます。特に、山形と宮城は盛ん。同じ釜の飯ならぬ芋煮鍋をつつくことで、家族や仲間たちと、より絆を深め合う場として、お花見と同様に、大事な行事なのです。



全国ニュース上、9月の日曜日に行われる「日本一の芋煮会フェスティバル」が紹介されやすく、ご存知の方もいるのでは。晩夏から、スーパーマーケットや大学生協では、芋煮会の食材セットの予約や鍋等のレンタルが行われ、河原の近くのコンビニには、薪の束が軒下に山積みとなって売られています。鍋のお味は、宮城と山形県庄内地方は豚汁風(味噌味)、山形は牛すき焼き風の醤油味です。三陸沿岸部や山形県村山地方は寄せ鍋風、秋田は鶏肉×醤油味だそうです。サトイモと鶏肉の入った野外鍋料理といえば、ルーツは違うようですが、愛媛県の「いもたき」も有名ですね。非常に親近感が湧いてきます。「日本一の芋煮会フェスティバル」(山形県山形市)毎年9月

<http://www.nihonichi-imoni.com/>

姫路お城祭り(2013.9.10 姫路より K.M.)

8月2日から4日までの三日間、姫路城周辺では「第64回姫路お城まつり」が開催されました。姫路城薪能、ひめじ良さ恋まつり、大パレード、総勢約千人で播州音頭を踊る総おどりなどイベントは盛りだくさん。お城の南側の公園ではビアガーデンも開催されています。なかでも、姫路お城の女王を先頭にした市民パレード、黒田24騎や千姫をはじめとする姫路ゆかりの人物に扮した歴史パレードは人気です。黒田官兵衛役の方はお椀を



逆さにしたような朱塗合子形兜をかぶり、白馬に乗って登場。沿道の観客を魅了しました。総おどりでは、若い方はもちろん、ご年配のグループも思い思いの色鮮やかな衣装を身にまとっての参加。100人を超える大所帯のチームもあり、息のあった踊りは圧巻です。期間中は姫路城や姫路市立動物園、姫路市立美術館が無料開放されるのも魅力の一つ。来年は私ももう少し早い時間に出発して、各所を回ろうかなと思っています。

夏の思い出 (2013.8.19 姫路より N.K.)

かれこれ25年ほど前になると思うのですが。小学生の頃、ある日母に連れられて「夏休み子供博物館教室」のようなものに参加しました。地元県立博物館主催で行われ小学生20~30人+その親が参加し、毎週土曜日に野外での植物観察や標本作りを行うというものでした。今思えば理科好きだった母の独断による応募だったように思うのですが。きっかけはさておき、活動内容はまだ記憶に残っています。「海草の標本作り」これは分厚い海草からかなりの水分が出てきたため台紙はヨレヨレとなり微妙な出来栄えに。さらに海臭満載のおまけつきとなり、早々に廃棄したような…。「植物の標本作り」これまたたかだか博物館の裏山で採取した植物のため、めずらしさも何もなくとりあえず作製しただけとなり…。「石膏によるアンモナイトの化石複製」これについては当時から出土品(化石・遺跡問わず)が好きな子供ただけに本物との違いが歴然、迫力に欠け興味が持てずどこか行方不明に…。しかしながら、「昆虫の標本」については特に虫好きというわけではなかったものの、なんだかできた作品がキラキラした一品に思え樹脂がこんなに黄ばんでしまった今でも手元に大切に置いています。不思議なものですね。これから夏本番！各所イベントにて素敵な思い出をつくってみられてはいかがでしょう？



七夕茶会 (2013.08.07 仙台より M.S.)

金研には、「共融会(きょうゆうかい)」という教職員+学生+OBの交流・親睦組織があります。その中に、約20種の部活動も構成され、法人化以前よりはおとなしいものの、いろいろ活動を続けております。その中の一つ、茶道部の七夕茶会が、7月31日(水)夕方、金研内の和室にて行われました。茶道部は、創立されて40年くらいになるそうで、長い歴史があるみたいです。(ちなみに、仙台の七夕は、旧暦で行われるため8月6日~8日の3日間です)夏のお茶会として、氷を浮かべた冷たいお茶と笹飾りなどで、季節感を表していました。笹飾りの短冊には、「畳が替わりますように♪」とあります。震災で傷んだ畳を緋毛氈でカバーしながら(隠しながら)お茶会をしているようです。部員の切実な願いが、星に届きますように☆



青葉の揺れる街 仙台 (2013.7.1 仙台より F.N.)

日差しが少し強くなってきました。例年より暑さがやってくるのがゆっくりになっているような気がします。青葉通り、定禅寺通りにある「櫻」、広瀬通り、上杉通りにある「銀杏」。有名なのはそのあたりですが、他にも研究所の敷地には大きな木々があり、野鳥も自由におしゃべりをしています。ちょうど今の季節が爽やかな風が吹き、美しい仙台を見せてくれます。



「仙台宮城DC笑顔咲く旅 伊達な旅」も6月末で終わり「七夕まつり」へ…。そして9月になれば「仙台オクトーバーフェスト2013」が始まります。今年で8回目のビール祭りは錦町公園で9/13-23の10日間。水もおいしい東北

ならではのビールやおいしいワインが登場します。錦町公園の大きな木の下で、風を感じながらビールを飲んでみませんか？仙台オクトーバーフェスト 2013 <http://www.sendai-oktoberfest.jp/>

東北六魂祭 (2013. 6. 10 福島にて Y.K.)

5月31日福島県文化センターでのコンサートがあり、さすがに日帰りはできないので福島で1泊したところ翌6月1日は朝からすごい人だかり。「ロコンサイ」のTシャツを着た人や、お巡りさんがここに。



ここに。ホテル予約の際何かイベントがあるらしく予約が取れなかったのはこれかと思いつつ朝の散歩気分で人の流れに沿っていくと、「東北六魂祭」のガイド紙を受け取りやっと説明。震災の復興を祈り年に一度、東北六県のお祭りが集結するイベントだったのですね。納得とともに急に興味津々…。運よく秋田竿燈祭りの様子を見学できました。手のひらに乗せてすごいな～と感心していたら、肩やら腰やら自由自在に妙技をさらりと披露。太鼓や笛の音が祭りの雰囲気さをさらに盛り上げていました。新幹線の時間が迫り六県のお祭りを一度に見物できるパレードが見られなかったのがとても残念でした。また機会があればぜひ行きたいと思います。

お伊勢まいり (2013. 5. 20 伊勢市にて F.N.)

「せめて一生に一度はお伊勢さん」と言われます。関西では小学校の修学旅行で行くことが多く、また友人との旅行、家族旅行でも訪れます。今年二十年に一度新しい社殿を造営する式年遷宮の年であることを聞き、私自身4度目となるお伊勢まいりへ行ってきました。まずは、衣食住をはじめ産業全般の守り神といわれる、豊受大神が祀られている下宮から。たくさんの植物や原生林に囲まれ、生き物達の息づかいを感じます。御正宮近くには、パワースポットといわれる「三ツ石」や「亀石(石橋)」があります。(残念ながら私にはパワーは感じられませんでした)



そして、天照大神を祀る内宮へ。玉砂利を踏みしめ、立ち並ぶ神杉を見ながら歩く参道は、ひんやりとした森に囲まれていて、たくさんの人々が歩いても静けさを感じます。神宮では御正宮ほかたくさんのお宮をめぐることに醍醐味かと思いますが、ゆったりと散策する中で心が不思議と落ち着いていく時間を持てたことが、今回のお伊勢まいりの新たな魅力の発見でした。内宮前には言わずと知れた「おかげ横丁(おはらい町)」があります。たくさん歩いて心地良く疲れたあとは、こちらで美味しいものを探すのもお伊勢参りの醍醐味です。

三ツ山大祭 (2013. 5. 9 姫路より N.K.)

先日、姫路で20年に一度のお祭り「三ツ山大祭(みつやまたいさい)」が行われました。地元が姫路ではない私にとっては昨年からはちこちに掲げられている広告をみても「なんじゃそりゃ？」と内容不明の思いのみ。そんななか2月に兵庫県立歴史博物館に行く機会があり、さらにたまたま「特別展示」が三ツ山大祭についてであったため概要を勉強することに。すると、お祭りの起源は平安時代「藤原純友の乱の鎮静を願うため」というところから始まり、1500年半ば以降は天災や国内安泰を願うため20年に一度の開催が定着しそれが現在まで続いているという。歴史好きの私にとってはかなり興味のわくものではないですか！ということで早速開催を待って見物に。姫路城そばの「総社神社」に3基の置山が据えられ(高さ18mという大きいもの)お祭り期間中このてっぺんに全国の神様をお招きし、たくさんの神事が行われるというありがたい祭礼を目にすることが出来ました。次の開催は20年後。また元気に見物にこられればいいなあと思いました。



雪月花 (2013. 5. 1 仙台より M.S.)

日本の伝統美を端的に表現する「雪月花」という言葉、これが先月4月21日(日)、こちら仙台で実際に観測されました。仙台は、4月上旬まで雪が降ることがあり、冬タイヤからノーマルへのタイヤ交換はその後、というのがいつものパターン。今年は、なんと4月21日(日)に雪が降りました。それも、1時間程度というレベルではなく、昼過ぎまで降って、仙台市中心部でも1センチの積雪となりました。この4月下旬の積雪というのは、1947年4月23日以来、66年ぶりのことだそうです(どおりで、記憶がないわけだ)。ちなみに「月」は、月齢10.7。「花」の桜といえば、前日の4月20日(土)に、画像のように、ちょっと肌寒い中、満開の下、お花見をしたばかり。タイヤ交換しちやった方は慌てたでしょうが、私はまだしていなかったので余裕だったにもかかわらず、出不精で、「雪月花」の鑑賞も撮影機会も逃しました。あ〜あ、残念。あと60年生きれば、もう一度めぐり合えるのでしょうか。NHK仙台放送局 みやぎくらしの安全 お天気メモ「雪月花」→<http://www.nhk.or.jp/sendai-life-blog/4000/153576.html>



大阪のマラソン (2013. 3. 21 大阪にて T.S.)

全国どこかしこでマラソンブームがおきている。私も20年以上も前から当時全国の子女子マラソンのはしりであった大阪国際女子マラソン大会に関わってきた。今では、世界的に有名なこの大会も、最初は、2時間40分前後が日本選手群のタイムであった。最近では2時間20分前後に記録が短縮され、それに合わせて一般参加の女性ランナーが増え続けている。彼女たちの存在が、女子マラソンの発展に貢献したことは言うまでもない。大阪は走路が平坦で記録が出やすいとされている。バルセロナ、アトランタでメダルを獲得された有森さんやシドニーで優勝した高橋さん、アテネ五輪の野口さんも大阪女子マラソンから生まれたスター選手である。大阪は、いろいろなことへの先駆けの街でもある。一昨年から大阪でも巨大市民マラソン=大阪マラソンがスタートした。約3万人の定員は数日のうちに超え、抽選で選ばれないと出場できないほどの人気である。ほんとうに、市民ランナーが増えたものだと感心している。iPS細胞を発明された山中先生も第一回大会に参加された。仏教用語に色心不二という言葉があるが、尊い発見は、鍛え抜いた身体のもとに生まれてくるという偶然も、やはり真理ではないかと感じる。何よりも、事故なく安全に、多くのランナーに、縁の下を支える人々にも感謝しつつ大阪を楽しんで欲しい。浪花の街の人情にふれ、大阪の新たな発見をして欲しいと願って止まない。写真は泉州国際市民マラソン大会 先導白バイ隊員



宮島参拝 (2013. 3. 11 広島にて I.N.)

広島は何回も訪れているのですが、先日初めて宮島に行ってきました。宮島行きのフェリーに揺られて6分程で到着。野生の鹿達に出迎えられながら商店街で「揚げもみじ」「甘酒」等を食べ歩きながら厳島神社までどうにか辿り着けました。大河ドラマ「平清盛」にも出てきた平家ゆかりの神社です。少し平安時代にタイムスリップした気分でした。宮島水族館や、ロープウェイもあるので次に行く機会があれば是非こちらも散策したいと思います。冬の海沿いはやっぱり滅茶苦茶寒かったです。



初詣「播州西脇成田山」(2013.1.10 姫路より A.T.)

皆さんは初詣に行かれましたか？我が家では、元旦に「播州西脇成田山」へ車の交通安全祈願に行くのが恒例になっています。「播州西脇成田山」はJR姫路駅より北東約40kmの西脇市にあります。兵庫県内では唯一、大本山成田山新勝寺（千葉県成田市）から認可を受けられた分院です。日頃からバス等の交通安全祈願をはじめ厄除けなど周辺地域だけでなく県外からも多くの方々が参拝されます。特に初詣の時には、開運招福の御利益を授かろうとする人々と交通安全祈願の車で境内は埋め尽くされます。私も毎日利用している車なので、一年に一度は清めていただこうと思い「今年も無事故で過ごせますように！」と祈りを込めて参拝しました。



仙台初売り(2013.1.7 仙台より M.S.)

新年おめでとうございます。今年も当HPをどうぞよろしくお願ひします。昨年は正月のごちそうをとりあげましたので、今回は、殿様商売と批判される仙台の、とってお得でありがたい「仙台初売り」について紹介いたします。多くの方が一年の初めに商売することを初売りということだと理解されていることでしょうか。仙台では、伝統に敬意を表し、元旦は営業せず、1/2からの超お買い得な商売のことを「初売り」としております(どうしても営業したい大型店でも元旦は初売りではなく、通常営業を行います)。この「初売り」、特例として他地域より豪華な景品を付けることが可能になっており、近年はバーゲンの前倒しのため、「初売り」と一緒にバーゲンを狙って、仙台人のみならず、近隣からも参戦し、お買い物に励みます。皆様のイメージする初売りと同様に、もちろんお得な福袋♪や景品、福引があります、でもそれだけではないのです。もう一つの目玉は、商品券です。商品券がなぜ??と思われるよね。初売りでは、「二割増商品券」、「三割増商品券」を販売しているお店があるからですよ~!! え、商品券の割り増しって、やっぱり変でしょうか?例えば、二割増し商品券だと、1万円分の商品券を購入すると2,000円増の12,000円分の商品券となります。仙台人は今年のお買い物計画を立て、初売りに参加して商品券を入手しておき、折を見て希望物入手というお買い物方法もあるのです(お店によっては使用期間の制限有)。仙台初売りの詳しい歴史はこちらから→http://www.sendaihatsuuri.com/sendai_05.php



画像の垂れ幕の御方、仙台の福の神「仙臺四郎」様についてはこちらから→<http://www.mitakisan.com/shiro.html>

書写の大根焚(2012.12.10 姫路より T.S.)

兵庫オフィスのある兵庫県立大学は書写山のふもとにあります。その山が赤や黄色に染まる11月23日、大学のすぐ東側にある阿弥陀寺で大根焚が行われました。厚く切った大根を檀家さんが大鍋で炊き上げます。お椀によそわれるのは、直径10センチはある大ぶりの聖護院大根で、甘く味付けされたうす揚げが添えられます。あいにくの雨でしたが訪れた人々は湯気上げる大根を、無病息災を願いながらほう張っていました。美しい境内の紅葉も楽しめました。この行事が終わると書写の山々は冬支度を始めます。



冬が来る (2012. 12. 6 仙台より K. E.)

季節の話題が紅葉から雪へと移り、朝晩の冷え込みが厳しく、起きるのが辛くなってきました。片平キャンパスにも雪が風に乗ってやってきて、冬の到来を実感している今日この頃です。掲載の写真はほとんど落葉した仙台的定禅寺通りの櫛並木ですが（少々殺風景な写真ではありますが）、間もなくここで冬の風物詩光のページェントが開催されます。今年は12月7日～31日の期間、17:30～22:00の時間帯で、約60万個のLED電球によってライトアップされます。（31日のみ23:00まで点灯）既に電球の取り付けは終わっており、点灯される時を待つばかりとなっています。期間中、いろいろなイベントもあるようですので、お出かけになられてはいかがでしょうか。私もあまり寒くない日に出かけてみようと思っています。詳細情報はこちらから → <http://www.sendaihikape.jp/index.html>



省エネ (2012. 11. 20 堺より H. N.)

立冬も過ぎてから夏の話で恐縮です。今年の夏も我が家ではエアコンは使わず仕舞い、去年は試運転はしたのですが、ベランダの室外機の前に乱雑に並んだ鉢植えを退けるのが面倒でそれもせずいるうち暑さは過ぎてしまいました。同じベランダの一端に茂っていたのが去年に続いて家人が収穫を目的に仕掛けたゴーヤです。写真（7月）では瘦躯ですが盛夏にはよく太り、拳二つほどの大きさのものを合計20個ほど。チャンプルーなどにして味わいました。我が家では自前の食料というつもりしかなかったのですが、ゴーヤなどの蔓草が世間では「緑のカーテン」とか言われて注目されていたようです。生命力は見事なもので、油断していると物干竿が蔓にたちまち覆われてしまいます。その「カーテン」が西日を遮ってくれたのも、我が家のエアコン要らずに寄与したかもしれません。家人は「ケチで面倒くさがりなだけ」と宣っていましたが。鉄筋コンクリートの箱（高層集合住宅）は冬は暖かいですが夏の暑さが問題、太陽からのエネルギーで自ら育つ植物たちは身勝手な搾取者の日除けとなり食糧となり、その生き方に学ぶとともに我が身への来世の報いを案じて過ごした夏でした。



音楽の祭典 in 仙台 (2012. 10. 1 仙台より M. S.)

「暑さ寒さも彼岸まで」とは、本当だと実感したこの夏。あんなに暑かったのに、涼しいを通り越して、こちらは朝夕かなり寒く感じます。さあ、これからは、芸術の秋♪ 仙台は、年間を通じて、市、企業、プロモーターまたは放送局主催のものだけでなく、市民ボランティアが主体となって開催し、街を舞台装置とした無料の屋外音楽祭が多く、「楽都仙台」（もともと親しまれている通称「学都仙台」から）として、音楽のイベントが多彩です。先月9/8(土)－9(日)、定禅寺ストリートジャズフェスティバルは、お天気にも恵まれ、過去最大の84万人の人出という盛況のうちに終わりました。（画像は、よくイベントが開催される仙台のメインストリート、定禅寺（じょうぜんじ）通り）10月は仙台クラシックフェスティバル（せんくら）、11月は仙台ゴスペル・フェスティバルと続き、あっという間に、落葉した定禅寺通りのケヤキに、イルミネーションが輝く師走を迎えるのです。定禅寺ストリートジャズフェスティバル <http://www.j-streetjazz.com/>、仙台クラシックフェスティバル <http://sencla.com/>、仙台ゴスペル・フェスティバル <http://gosfes.org/>



河原の楽しみ (2012. 9. 11 姫路より N.K.)

先日、「鮎のつかみ取りをみんなでやって、それをその場で焼いて食べさせてもらえるよ」という甘い言葉にのせられて、市内を流れる夢前川(ゆめさきがわ)上流へと向かいました。夢前川は「雪彦山(せつぴこさん)」916mに発し姫路市を南北に流れる二級水系河川の本流。姫路市街から30分ほど車で走ると、なかなかの大自然。「さっそく鮎を捕獲!」と思ったものの、日頃から運動もしていない私にそうそう手掴みなどできるわけもなく、意識はつい河原に。あまり賛同者には出会いませんが、河原はロマンです。色も大きさも内包される鉱物も違う石が集まり、もはや宝の山。その中からいくつか気に入ったものを手に取り見つめ始めると、もう目が離せない。「綺麗な色」「素敵な層状」「変わった模様」鮎そっちのけでつい石拾いに夢中になり、帰宅して気づくと肩にはすごい日焼けが…。皆様、この季節くれぐれも日焼けと熱中症にはお気をつけくださいませ。



ジャイアントパンダが仙台に来る?? (2012. 8. 1 仙台より F.N.)

先般、東京・上野動物園で自然交配の赤ちゃんパンダが生まれたと話題になりましたが 仙台市でも被災地・東北の子どもたちに夢と希望を与え、復興のシンボルとなるようにと八木山動物公園にジャイアントパンダを導入する取り組みを進めているそうです。パンダは中国に生息し絶滅の危機にある動物。生息環境の保全と飼育施設での繁殖研究を推進する取り組みが必要ですから、今後5年間の受け入れ期間中も非常にデリケートに扱わないといけなくて、どこまで子供たちに夢と希望を与えられるのか?大人たちの力の見せ所です。「命」を沢山失った地域の子供たちがふたたび「命」の素晴らしさや不思議を感じ、「自分の存在を大切に思うこと」ができるような、そんな存在になってくれたらと願わずにはられません。和歌山に、上野に続き、繁殖もしてくれたら…そんなことを夢見て…。

東北の桜 (2012. 3. 1 仙台より S.U.)

先日、出張で関西に行ったのですが、関西に行くと、生まれも育ちも東北の私は、大袈裟かもしれませんが、ちょっと外国に行ったような気分になります。言葉や食べ物など、同じ国でもずいぶん文化の違いがあるものです。ところで、もうすぐ春(暦の上ではとっくに春なのかもしれませんが)、桜の季節ですが、桜を見ると、そんな文化の違いの話で思い出す話があります。学生時代に先生がおっしゃっていた話です。ある年の4月、新学期が始まって間もない頃、その当時、先生は九州から仙台に来たばかりだったそうですが、ある日、研究室の学生さんに花見に誘われたのだそうです。そして先生はそのことに大変驚いたというのです。花見なんて普通のイベントなのに、いったい何を驚くことがあるのか、と私は思ったのですが、そう思うのはまさに私が東北人だからなのです。先生は九州から来たばかりで季節は4月の半ば。つまり、九州では、桜は4月の半ばにはもう散っているのに、新学期に新しいメンバーと花見をするという文化はないのです。よく考えれば当たり前のことなのですが、はっとしたのを覚えています。同じ場所にばかりいると気が付かないことが、きっとたくさんあるんでしょうね。時間が過ぎるのはあっという間で、去年の震災からもう1年が経とうとしています。今年も日本中にきれいな桜が咲きますように。



高野街道 (2012. 2. 22 堺より H.K.)

高野街道は、高野山を参る道として発達し、江戸時代に最も賑わい、現在もその址は残っています。大阪府立大学の近くに出雲大社大阪分始祠がありますが、その横を「西高野街道」が通過し、河内長野市を突き抜け、紀見峠を越え、高野山へと続いています。今も、道標やその当時の面影は、堺市中区関茶屋（出雲大社大阪分始祠付近）にも残っています。街道の河内長野市以北には、西高野街道以外に、東高野街道、中高野街道、下高野街道に分かれ、各方面を結んでいるそうです。昔の人は、堺から旅立ち河内長野市三日市町で一泊し、高野山で投宿したといえますから、その健脚には驚かされるばかりです。南海高野線河内長野駅から三日市町駅までは、ほぼ河内長野市の中心街を通過し、歴史的な史跡なども残っています。河内長野市三日市町は、高野山へのお参りを前に、紀見峠越えを前にした宿場町として栄え、今も街道沿いに虫籠窓のある旧家がひっそりと佇んでいます。辿り着く紀見峠の眺望はすばらしく、しばし時を忘れさせてくれます。もう少し、暖かくなってから、一度高野街道の散策はいかがでしょう。



お菓子の姫路城 (2012. 2. 15 姫路より R.I.)

姫路城の南側にある、総合施設イーグレひめじに、全体がお菓子で出来た姫路城が展示してあります。この姫路城は、2008年に姫路で開催されたお菓子の祭典、第25回全国菓子大博覧会・兵庫「姫路菓子博2008」でメインモニュメントとして製作されたものです。大きさは、実物の50分の1で、使われたお菓子の材料の総重量は、1.6トンにもなり、製作には、1年間かかったそうです。全部お菓子で出来ているのですが、近くで見るととても精巧に出来ていて、驚かされます。特に屋根瓦や石垣などは、本当に本物を小さくしただけのように、そっくりに出来ています。そのお城の下には、お菓子で出来た大名行列の人形達。人形達の中には、秘かに志村けんさんのバカ殿様や、岩の上にお龍さんといっしょに座っている坂本龍馬、そして西郷隆盛などの人形が混ざって作ってあったりして、思わず笑わされてしまいます。お城の周りを飾る白鷺の群れや松の木、草花なども羽や花びらの一枚一枚がとても細かく作られていて、一見の価値あります。イーグレひめじは、姫路駅から歩いて約15分の場所。姫路駅周辺に来られる際には、是非一度ご覧になられてください。



「どんと祭」に祈りを込めて… (2012. 2. 8 仙台より N.F.)

今年も、東北の各地では1月14日から15日にかけて様々な「小正月」を祝う行事が行われました。特に「どんと祭」は仙台の小正月の代表行事。「裸参り」の人たちが氷点下の身を切るような寒さの中、さらしを巻いて提灯を持って練り歩く姿は見ている私たちも身が引き締まる思いです。この祭りでは去年のお礼、お守り、正月飾り（松飾など）、だるま、神棚（今年はこれが多かった）…などを「お焚きあげ」します。この「火」にあると「無病息災」と言われていて大きな火の周りには沢山の人が手をかざしていました。そして2月はまた本格的な寒さと向き合う東北。どうか…無事に健やかに1年過ごせますように。（写真は仙台市若林区：陸奥国分寺 薬師堂）

